



日本女子大学文学部教授

三神 和子
みかみ やすこ



図書館の閲覧室で本を読もう

わたしは図書館の閲覧室で本を読むのが好きだ。我が家で読書するのも好きだが、図書館には独特の良さがある。図書館にはそれぞれが自分の作業に専念できながら、同じ時間同じ空間で読書しているというところで、周りの人たちと仲間意識のよくなるものを味わうことができるからだ。静かさの中に隣の人の頁をめくる音やメモをとる紙の音が聞こえてくる。かえって、落ち着くことがある。

もちろん、自分の作業に専念できる場所を確保することは必要である。それが知的作業なら、なおさらのことだ。しかしそれ以外にも、他の人を一切遮

断した空間でなくてもよいと思う。八五年前のイギリスで、女性が自分の部屋を持つのが難しかった時代に、女性作家ヴァージニア・ Woolf (一九〇二―一九四二) は、ケンブリッジ大学における講演のなかで(一九二八年、『自分だけの部屋』として一九二九年に出版)、女性が作家としてやっていけるための条件の一つに「鍵のかかる自分だけの部屋」を挙げた。ある程度の知的作業を成し遂げるためには、だれにも邪魔されない自分専用の空間が必要であり、それを女性にも与えよと説いたのである。

しかし、このWoolfの主張は当時としては画期的

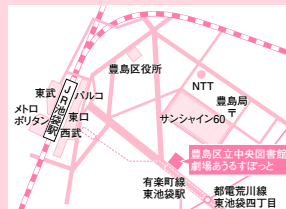
と しょ かん っ う し ん 書 館 通 信

トピックス

- 巻頭言 日本女子大学文学部教授 三神和子……………1ページ
- 図書館と私 東鴨図書館運営専門員(司書) 佐藤 泉……………2ページ
- 学校と図書館 駒込図書館運営専門員(司書) 佐藤真紀……………2ページ
- 生涯の一冊 みみずく資料館 館長 池澤清治……………2ページ
- 東鴨の「四季」 宇野正純……………3ページ
- 図書館からのお知らせ……………4ページ
- 図書館イベント情報・図書館カレンダー……………4ページ



発行 ● 豊島区立中央図書館
東京都豊島区東池袋四一五一一
ライズアリーナビル四階・五階 〒170-8442
電話 ● 03-3983-7861
FAX ● 03-3983-9904
ホームページ ● <http://www.library.toshima.tokyo.jp/>
発行日 ● 平成25年4月



新航路[26]

リフレッシュスペースの改装について

平成25年度がスタートしました。新入生、新社会人の皆さん、入学・入社おめでとうございます。これからの皆さんの勉強や仕事にぜひ図書館を活用してください。図書館は皆さんの味方です。

さて、中央図書館では4階にあるリフレッシュスペースの改装を予定しています。開館以来、毎年およそ100万人、一日あたり約3,000人と、当初の予測を大きく上回る多くの皆さまにご利用いただいています。このような状況の中で4階のリフレッシュスペースについて「休憩スペースが狭く利用しづらい」等のご意見を多数いただいています。こうしたことから休憩コーナーであるリフレッシュスペースを拡大す

る改修工事を実施することといたしました。改修にあたっては、喫煙室を撤去しテーブルや椅子を増やし、床、壁など明るいイメージを基本として改装いたします。

一方、喫煙者の皆さまには改修後ご不便をおかけすることになりますが、何卒ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

改修時期につきましては毎年6月中旬から実施している特別整理休館を利用して行う予定です。詳細につきましては、後日、館内掲示、図書館ホームページ等でお知らせいたします。

今後とも利用しやすい図書館を目指してまいりますので、皆さまのご利用をお待ちしています。

Current & Encounter

中山伊知郎の晩年

豊島区図書館行政政策顧問 粕谷 一希

東畑精一は東大農学部、中山伊知郎は一橋大学の違いはあったが、同時期にシユンペーターの下に留学し共に門下生となった。東畑さんはアジア経済研究所の理事長、中山さんは中労委会長と、共に大学を辞めても要職に就いて腕を振った。

共に囲碁が好きで、会議のあと二人は碁盤を囲んだ。暴力も同じ位、勝ったり負けたりの、見ていても楽しい碁だった。中山さんは「囲碁クラブ」の別冊附録を必ず持つっていて、「これが一番いい」と得意だった。中山さんは健康のためか、ゴルフを始められた。無精者の東畑さんはゴルフなどやらず、浅酌低吟(しやくていごん)酒ばかり呑んでいた。しかし皮肉なことに、東畑さんの方が生き残ってしまった。

東畑さんの「養の心」『農書に歴史あり』の二冊の随筆集があるように、中山さんにも「徹夜の記録」『浅間以後』の二冊の随筆集がある。あるとき、事務所に向うと、「どうも会議とというのは返園でいけない。いま会議を脱け出して、隣りのみゆき座で『悪名』を見てきた。面白く、君も見ろよ。」とおっしゃる。「いつてきます。」と私もニヤリとした。勝新太郎と田宮 二郎の傑作で私は中山さんから教えられたことをいまも得意に思っている。

中山さんはシユンペーターの蔵書が売りに出たとき、一橋大学で一括買い求めている。学長時代のことだろう。昔は中労委の廻りも赤旗が乱立し、組合幹部から「ソロソロ先生も私たちの陣営にいらっしやいませんか」ともかけられたことを話して頂いた。そうした時代が終って映画行きとなったのだろう。

中山さんは先進国型、東畑さんはアジア後進国型。東畑さんは学者と官僚をガッチリ握っていたが、中山さんはA・トインビーの全集を全部読むんだとハリキッテおられたが果してどうなったか。中山・東畑さんのような味のある指導者はいなくなってしまう。同じ日本人でも小粒になったのだろうか。中山さんのお嬢さんが電話をかけていたがどうなったことだろう。

日本女子大学文学部教授。専門はイギリス文学。平成一七年四月から二四年三月まで豊島区教育委員。平成二十年十二月から二四年三月まで豊島区図書館経営協議会委員。

生涯の一冊
(27)

書名: 『大帆船時代: 快速帆船クリッパー物語』
(中公新書 542)
著者: 杉浦昭典
発行者: 中央公論社
発行年月: 1979年6月



豊島ふくろう・みみずく資料館 館長
池澤 清治

私の若い頃は、洋酒が高値だったがその中でも初めて呑んだ時のカティサークはとてまろやかで美味しかった。
それからはちよつと洒落た処で呑む時はいつもカティサークを口にした。この酒のラベルには、帆船のカティサーク・クリッパー号が描かれていた。カティサークってどんな意味なんだろう? 今ではインターネットで調べればすぐ判るが、私のその頃はコンピュータも無かったので調べるには大変だった。そこで私は国会図書館の学友の助けもあり、一冊の本「大帆船時代」を選んだ。そこには帆船カティサーク

『大帆船時代・快速帆船クリッパー物語』

のことが詳しく書かれていた。

カティサークの悲運と目的達成、時代の変化による船会社の運命を知ったとき、当時私の事業の目的方向と資金不足対策の考えが重なったような気がし、何度も読み返した。カティサークはカティII短い、サークII(アイルランドの古い言葉、シミーズの意味、十八世紀後半に生きたスコットランドの詩人ロバート・バーンスの物語詩に出てくる妖精ナニーが集会の時に着たヒベリー織りの下着の名前だった。カティサークを着た妖精ナニーが、逃げる農夫タムの愛馬のしっぽをもぎ取った時の姿が、帆船の船先にフィギュア

ヘッドとして取り付けられている。船の名前としては破天荒だが物語を背景に名を付けたジョン・ウィルスに共感を覚えた。よし、模型を作ろう、と思ったが進水当時の艦装の模型キットは無く戦後のドライドックにある姿だった。
昭和59年4月に進水当時の艦装の図面と模型製作の参考書をロンドンで入手し作業が始まったが、これが大変倒壊工程で、辞書を片手の木工作業は手間と時間がかかった。それでも船体内部構造とキールが出来上がると、飾る場所も考えるも完成にはほど遠くすでに半世紀が過ぎてしまった。
久しぶりにカティサークを前にオンザロックで呑んでみた。帆船カティサークは完成を夢見る私の心をとらえて未だに離れない。

図書館と私 15

東鴨図書館運営専門員(司書)
佐藤 泉

読み聞かせの時間

「だって、おまえは とってもかわいいわたしのぼうやだもの」(『ぼくにげちゃうよ』より) そう読んで抱きしめた時の幼い息子の嬉しそうに笑う顔を思い出す。

昔、私が子育てをしていた頃、近くに図書館がなかったので、たまに本屋で買った絵本の中から、子どもの気に入ったものを繰り返し読んだものだった。やがて二番目の子どもも加わり、少し長いお話も何日かに分けて読むようになっていった。

子どもたちへの読み聞かせがいつ頃まで続いたのか、はっきり覚えてはいないが、それは確かに子どもたちと結びついていると感じられることのひとつだった。そしてその時、私は自分が幼かった遥か昔に、母が昔話や即興で作った話などをしてくれたことも思い出すのだった。あたたかく、しあわせな思い出である。

今、図書館のお話会で絵本などを読む時、子どもたちはさまざまな表情でお話を受け

取ってくれる。楽しんでほしい、心がやわらかくなってほしい、といつも願う。

もちろん身近な家族などによる読み聞かせに勝るものはないのかもしれないが、図書館や他での読み聞かせには、また違う部分があるように思う。お気に入りの本以外のものに出会ったり、知らない子と並んで同じものを見て聞いて、共感できたりするのも嬉しい体験なのではないだろうか。

本を楽しむことは、ちがう世界へ心を解放することでもあると思う。心はどこへでも飛んでいける。読み聞かせもその入り口へいざなう道具のひとつでありたい。

楽しいお話、元気のお話、悲しいお話や怖いお話、また知識の本など、子どもたちと味わいたい本はたくさんある。まだまだ学びながらではあるが、次はどの本を読もうかな、と児童室をのぞくのは、悩みながらも嬉しい時間である。

学校と図書館

駒込図書館運営専門員 佐藤 真紀(司書)

利用者目に触れない業務は図書館にたくさんありますが、その一つに学校へ向けたサービスがあります。

学校サービスは①おはなし会、②ブックトーク、③職場体験、④施設見学、⑤団体貸出などがあります。今回はその中の主要なサービスであり、一般の方々にはあまり耳慣れない「ブックトーク」についてご説明したいと思います。

ブックトークとは、あるテーマやキーワードに沿った本を絵本、読み物、知識本といった様々なジャンルから選んで紹介していく方法のことをいいます。おはなし会が絵本を中心として最後まで読むことが多いのに対して、ブックトークは本のさわりやおすすめポイントを紹介することによって、子どもたちが本を手取るきっかけにするという違いがあります。そのため、お話のさわりの部分だけで興味を持つような小学校中学年以上に向いているとされています。

抽象的な説明だけではわかりにくいので例を出してみたいと思います。テーマは「飛んでみたいな!」。魔法のホウキで空を飛ぶ『魔法のホウキ』(読物)→魔法のホウキが主役『魔法のホウキ』(絵本)→空を飛ぶ身近な生き物『カラスの大研究』(知識)といったように、「飛ぶ」というキーワードを使い、どんな本をつなげていきます。

紹介の仕方も様々な工夫をしています。『魔法のホウキ』は宮崎アニメの話から入

り、実は原作があるという流れに持っていき本を紹介します。『カラスの大研究』では、日本代表サッカーのユニフォームについている3本足のカラスの本から紹介して、スポーツ好きの男子の興味を引くようにします。もちろん本の内容が優れたものであるのは言うまでもありません。紹介の仕方だけではなく、どれだけ本を知り、どの本を選ぶかで成功するかが決まります。もちろん準備には時間がかかります。しかし、ブックトーク後は子ども達が本の周りに集まり、図書館でも紹介した本の貸出数が増えることを思うと、時間をかけても行う必要があるサービスだと考えています。

豊島区では児童サービスの大半を、司書もしくは司書教諭の資格を持った職員が行っています。また、「選書」といって図書館で購入する本を選ぶ作業でも、児童書は必ず全て読み、中高生向けの本に関してでもできるだけ目を通すようにしています。一見地味で無駄な作業に思われるかもしれませんが、そのような地道な作業の積み重ねがサービスの質を高め、子ども達と本をつなげていくのです。

- ※1 『魔法のホウキ』 角野栄子作、林明子画、福音館書店、1985
- ※2 『魔法のホウキ』 C・V・オールズバーグ絵と文、村上春樹訳、河出書房新社、1993
- ※3 『カラスの大研究』 都会の悪者か神さまの使いか、国松俊英文、関口シュン絵、PHP研究所、2000

巣鴨の「四季」

第1回 染井で桜の植樹4000本 昭和27年、「桜を植える運動」を展開した 西福寺26世宥雲住職と植木屋伊藤栄二郎さん

宇堃 まさずみ 正純

<著者プロフィール>

1932年生まれ。学習院大学卒。新聞社勤務を経て独立。造園・植物関係の図書雑誌の編集、出版に携わる。



「桜」といえば「ソメイヨシノ(染井吉野)」。その発祥の地が染井である。と自任しているのが染井地区、巣鴨・駒込一帯の人々である。ソメイヨシノは薄いピンクの花を一斉に開き一斉に散る。その落花も美しい。その後、緑の新芽が開いてくる。日本人の心情を表している花として人気がある。明治期、繁殖も移植も容易で短期で開花するのでたちまち全国に普及し桜前線の基準木となった。



左側が西福寺の塀。桜は両側にあり花のトンネルになる

春ともなれば長い塀から乗り出して道いっばいにソメイヨシノが花開く西福寺を「染井百選」の取材で編集の山田眞理子女士と共に訪ねた。平成7年、8年の



右は、先代花園宥雲住職 37歳の時
左は、伊藤栄二郎さん 68歳の時

今回、再び訪れたところ、昌成氏は平成11年11月に他界し代わりしていたが奥様の花園美代子さんは健在で話を伺うことができました。「このあたりの桜は、先代の宥雲と友人である駒込の植木屋伊藤栄二郎さんの二人で植えたものだと聞いていました。なんでも、染井なのに桜がないと嘆いていたそうです」と昌成住職。そしてこの二人は都民の日の制定をきっかけに「桜を植える運動」を始めた。昭和27年のことである。大空襲で焼け野原になった巣鴨一帯、桜の木がそうそう残っている筈もないが、この運動、公園や道路端にはソメイヨシノの木を寄付し、個人の庭には買ってもらって植えたり、昭和38年までの10年間になんと... 4000本を植えたというのだからスゴイ! 桜の木は植える手間を入れると1本200円。大変な額になる。

伊藤栄二郎さんの息子の康雄さんは「当時、この木を植えてこい」と親父にいわれて、木をリヤカーに積んであちこちに植えるに行きました。4000本はオーバードと思いますが15年生くらいは木をかなり植えました。先代が折衝役で父が植える係。私は下働きですね。二人とも明治32年生まれて実には仲のよい友人でした。ね。」「染井公園は都の公園ですよ。タダで植えるからといって許可がなかなか出ないで苦労しました」と。でも、こういった苦労があった桜の染井公園の今があることは確かである。

花園美代子さんは「伊藤さんのところは康雄さんも亡くなられて植木屋も止めてしまったのですよ。私がここに嫁いできたのは昭和45年で

すけど、道に張り出すように立派な桜がたくさんありました。今はすいぶん太くなって散歩がてら花見をする人も大勢ですよ」と話す。西福寺の門を入るとすぐ右に染井吉野の里と刻んだ背丈ほどの石碑がある。あるTV局が取材に来て「この石はいつ頃できたのですか」と聞いた。昌成住職は「石がいつできたかそれは分からないよ、って。私も意地が悪いから」と笑う。ユーモアのある住職である。「先代は昭和48年4月に亡くなりましたが、生前、ひとまり桜を見てくると座って一服していた石なのでね。植木屋の館野藤市さんが記念にその石に彫ってきてくれたのです。私も桜の好きだった父の供養になると48年6月に建てたのです。側面には館野さんの名も刻まれている。

最後に桜といえはこの人、桜守の第一人者である佐野藤右衛門さんの話をしよう。以前、私が日本で初めての庭の雑誌『庭』の編集をしていた関係で何度かお会いしたことがある。佐野藤右衛門さんは昭和3年京都に生まれ、植樹造園16代目の当主である。代々、京都の仁和寺御室御所に仕えた家柄でサクラの大家。桜守として桜の名木の保存につとめている。この佐野藤右衛門さんが昨年の3月に講談社から「桜守のはなし」を出版した。A4変形判、わずか37頁の本である。

水野克比古さん撮影の京都丸山の祇園桜垂桜の四季の写真がすばらしい。他に桜守の七つ道具や種子まき、接ぎ木の話などがあるが、いずれも解説がやさしい短文で、しかも文字が大きい。絵本感覚で見られるのがよい。お子さんやお年寄りも十分に楽しめるお薦めの1冊である。



寺門を入るとすぐ右側に建てられている「染井吉野の里」の石碑

あうるすぽっとからのお知らせ

『第四回 文楽・素浄瑠璃ワークショップ 絵本太功記一尼ヶ崎の段』

三業と呼ばれる「太夫・三味線・人形」で成り立つ文楽。なかでも文楽の音楽的要素を担う太夫と三味線による素浄瑠璃をお楽しみいただけます。四回目を迎える今回の演目は『絵本太功記一尼ヶ崎の段』。豊臣秀吉の出世物語である『絵本太功記』に対し、この「絵本太功記」は苦悩の末に謀反を起こし、滅ぼされる明智光秀と一族の悲劇を描いています。今回上演する十段目「尼ヶ崎の段」はいくつもの不運が重なり、悲壮感にあふれる名場面。歌舞伎でもよく上演され、「太十」(たいじゅう)とも呼ばれる人気の高い作品です。この名場面を文楽座の将来を担う実力派の若手技芸員がたっぷり語ります。若手技芸員の太夫と三味線による素浄瑠璃の実演とレクチャーを通して、文楽の魅力を実感してみませんか。

- 日時 : 5月28日(火) 19:00~
- 会場 : あうるすぽっと 劇場
- 講師 : [太夫] 竹本相子太夫 [三味線] 鶴澤清植 ほか
- 内容 : [素浄瑠璃] 絵本太功記一尼ヶ崎の段 ほか
- 参加方法 : チケット制 ※チケットをお持ちの方はどなたでもご参加いただけます。全席自由 一般 3,000円 豊島区民割引(在住・在勤) 2,000円 学生:1,500円
- 取扱い : ■あうるすぽっとチケットコール 03-5391-0516 (10:00~19:00) ■チケットぴあ http://t.pia.jp/ 0570-02-9999 (Pコード:623-472) ※豊島区民割引は、あうるすぽっとチケットコールのみ取扱い



河原久雄文楽写真展 『近松門左衛門の世界』

あうるすぽっとホワイエ(ロビー)にて、「文楽」の世界を第一線で撮り続けるフォトグラファー河原久雄氏の写真展を開催します。近松門左衛門の浄瑠璃作品を中心に、舞台上で生きる文楽人形の生命力に溢れた作品をご紹介します。ワークショップで実演する『絵本太功記一尼ヶ崎の段』の作品も展示。この機会に伝統芸能「文楽」の新しい一面をのぞいてみてはいかがでしょうか?



- 会期 : 2013年5月28日(火)~6月10日(月)
- 時間 : 12時~19時(最終日は18時まで)
- 会場 : あうるすぽっと劇場ホワイエ(ロビー)
- 入場 : 無料

※詳細はあうるすぽっとHPをご覧ください。

図書館イベント情報

◆児童・あかちゃんおはなし会

毎週、本の読み聞かせなどのイベントを行っています。遊びに来てください。

「子ども読書の日」記念スペシャルおはなし会のご案内
4月23日は「子ども読書の日」です。各図書館では、この日を記念して、子どもたちが図書館に親しみ本を読む楽しさやふれられるように、スペシャルおはなし会を行います。
詳細は、各図書館へお問い合わせください。

★「子ども読書の日」とは★
「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、「国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため(同法第10条)」に4月23日が子ども読書の日に定められました。

各図書館の連絡先	
中央図書館	3983-7861
駒込図書館	3940-5751
巣鴨図書館	3910-3608
上池袋図書館	3940-1779
池袋図書館	3985-7981
目白図書館	3950-7121
千早図書館	3955-8361
雑司が谷図書貸出コーナー	3590-1335

主催/会場	おはなし会開催日		子ども読書の日スペシャルおはなし会(4月)		スペシャルイベント	
	幼児・小学生	あかちゃん	開催場所・日時	内容	5月	6月
中央図書館 児童コーナー (※印は会議室)	日曜日 午後2時	最終日曜日 午前11時	4月21日(日) 午後2時~ 児童コーナー	絵本の読み聞かせ、 パネルシアター など	★5日・おはなしこうさくかい 午後2時 ★26日・ボランティアによるおはなし会 午後2時(池袋親子読書会)	★2日・おはなしこうさくかい 午後2時
駒込図書館 (駒込地域文化創造館)	土曜日 午後3時 (5/18はお休み)	NEW! 第1水曜日 午前11時	4月20日(土) 午後3時~ 駒込地域文化創造館 音楽室	ビッグブックの読み聞かせ、 紙芝居 など		
巣鴨図書館 地下会議室	水曜日 午後3時	最終水曜日 午前11時	4月17日(水) 午後3時~ 地下会議室	絵本の読み聞かせ、 手遊び など	★1日・ほんのじかん こうさくかい 午後3時 ★22日・ほんのじかん スライド 午後3時	★19日・ほんのじかん えいがかい 午後3時
上池袋図書館 おはなしのへや (※印は地下ホール)	水曜日 午後3時	最終水曜日 午前11時※	4月17日(水) 午後3時~ 地下ホール	絵本・紙芝居・ パネルシアター・ ビッグブック など	★22日・さくらんぼえいがかい 午後3時※ 「TAMA&FRIENDS 3丁目物語 おともだち編」(23分) 「クマのプーさん きせつつなあに」(10分)	
池袋図書館 ワークルーム	30分繰り下がります 土曜日 午後2時30分		4月27日(土) 午後2時30分~ ワークルーム	詩人木坂涼さんによる著作 を中心とした読み聞かせ	★25日・たんぼえいがかい 午後2時30分 「ゴマちゃんの交通安全」(15分)	★22日・たんぼえいがかい 午後2時30分「とべないホタル」(17分) ★29日・たんぼえいがかい 午後2時30分 七夕飾り作り
目白図書館 地下区民集会室	水曜日 午後3時	第1水曜日 午前11時	4月24日(水) 午後3時~ 地下区民集会室	絵本・ビッグブックの 読み聞かせ など	★22日・かきくけこうさくかい 午後3時 「パッチンカエル」	★26日・めじろシアター 午後3時 「3丁目物語 春うけのタマ知りませんか」 (25分)
千早図書館 視聴覚室	水曜日 午後3時30分	水曜日 午前10時30分	4月24日(水) 午後3時30分~ 視聴覚室	絵本の読み聞かせ など	毎週水曜日に2回(午前・午後)、おはなし会を開催しています。	

日程・会場等が変更になることがあります。事前にお問合せください。

募集 ＊読み聞かせボランティア募集＊

図書館では、子どもたちの読書活動の推進を図るため、区内公共施設などで絵本の読み聞かせを行うボランティアを募集します。全8回の養成講座を受講していただき、ボランティア人材バンクに登録して、活動していただきます。

(1) 養成講座日程

期	日時	講義内容	講師
第1回	5月17日(金) 10:00~12:00	「絵本を選ぶ・読む・感じる」(講義)	児玉ひろ美氏
第2回	5月31日(金) 10:00~12:00	ワークショップ「声にだててみましょう」 0~2才児への読み聞かせ	
第3回	6月7日(金) 10:00~12:00	ワークショップ「声にだててみましょう」 3~6才児への読み聞かせ	
第4回	6月14日(金) 10:00~12:00	ワークショップ「声にだててみましょう」 小学校低学年への読み聞かせ	
第5回	7月5日(金) 10:00~12:00	「こどもと本の周辺」(講義)	
第6回	7月12日(金) 10:00~15:00	「活動に向けて」(講義) オリエンテーション 「ボランティア人材バンクへの登録など」	

※(後期)10月以降2回予定

(2) 会場 あうすぽっと 会議室

豊島区東池袋4-5-2 ライズアリーナビル3階
※中央図書館と同じ建物です。

(3) 講師 児玉ひろ美(こだまひろみ)氏

※JPIC読書アドバイザー。公共図書館司書。
図書館・学校・幼稚園の職員研修、ボランティア養成講座等を通じて子どもの読書環境を整える活動に専従。
厚生労働省社会保障審議会児童福祉文化財出版部門審議委員。
小学館月刊誌「edu」連載。

東京書籍「10代をよりよく生きる読書案内」[同:海外編]

[同:詩歌編] 共著。

平凡社「別冊太陽 心をつなぐ読み聞かせ」[同:続編] 共著。

(4) 対象

原則として次の①②③④の条件を全て満たす方

- ① 豊島区在住の方
- ② 教育・福祉施設などで読み聞かせのボランティアの経験がある方。または、読み聞かせボランティアに関心のある方(初心者でも可)
- ③ 全講座(8回)に参加できる方
- ④ 前期講座受講後ボランティア人材バンクに登録し、区内の子どもの施設などで読み聞かせのボランティア活動ができる方

(5) 定員 20名(応募申込書と面接をともに選考)

(6) 費用 無料

(7) 申し込み 平成25年4月3日(水)~17日(水)

※4月8日(月)は休館日のため除きます。
所定の申込用紙に記入の上、直接中央図書館に10時30分から13時、14時から17時までの間にお持ちください。(その際、簡単な面接あり)

申込用紙は、区内各図書館で配布。または図書館ホームページからダウンロードできます。
※選考結果は、4月30日(火)から郵送でお知らせいたします。
※選考内容等については、お答えできません。

★申し込み・お問い合わせ先 豊島区立中央図書館 児童担当★

〒170-8442 豊島区東池袋4-5-2 ライズアリーナビル4・5階
TEL 03-3983-7861 FAX 03-3983-9904
ホームページ <http://www.library.toshima.tokyo.jp/>

○千早図書館友の会主催○ 「千早進歩自由夢月例会」

※5月例会は定員を設けていませんが、6月例会の定員は50名です(先着順)。

◆千早進歩自由夢(5月例会)

史跡散歩「駒場公園の洋館と文学館を訪ねる」

日時 5月18日(土)
集合場所 12時30分 東京メトロ有楽町線副都心線・千川駅改札前集合。
または、13時30分 京王井の頭線・駒場東大前駅東大目集合
旅程内容 目黒区の駒場公園内にある「旧日田侯爵邸(洋館)」と「日本近代文学館」を見学します。
旧日田侯爵邸ではボランティア、日本近代文学館では学芸員の案内がつかます。
費用 日本近代文学館の観覧料として200円がかかります。また、交通費も自己負担となります。

◆千早進歩自由夢(6月例会)

講演会「私、近頃思うこと」

日程 6月15日(土) 14時から16時(開場:13時30分)
会場 千早図書館 2階 視聴覚室
講師 俳優・阿部寿美子氏
講演内容 映画「橋のない川」など多数の作品に出演されている俳優・阿部寿美子氏に、これまでの演劇人生における様々な体験談や、講演会のタイトルにもある「近頃思うこと」などをざっくばらんに語っていただきます。
また、阿部氏の代表作である映画「北緯15°」のデュオの一部を上映する時間もあります。
講師略歴 東京出身。俳優座第一期卒業後、1952年に俳優座入団。1956年に退団。以後はフリーとなり、舞台、映画、テレビで幅広く活躍。
近年では、辻村寿三郎人形芝居に出会うことにより語りの世界を広め、ヨーロッパ公演にも参加。N響にて「心中天網島・小春」の心情を語り好評を得る。1985年からは「8月15日平和を語る会」を横浜で25年間上演した。2001年に「阿部寿美子の会」で「山月記」をプロデュースして大好評を博す。
また、2002年と2003年には豊島区主催による辻村寿三郎人形芝居の語り手として話題を呼ぶ(2002年「化鳥2002」、2003年「押絵と旅する男」)。現在も様々な分野で活躍中。豊島区千早在住。
定員 50名(先着順)

●特別整理休館のお知らせ●

下記の日程で休館になります。ご迷惑をおかけしますが、ご理解、ご協力をよろしくお願い致します。(巣鴨図書館については、別途お知らせします。)

- 駒込図書館 5月15日(水)~5月20日(月)
- 千早図書館 5月22日(水)~5月27日(月)
- 上池袋図書館 5月29日(水)~6月3日(月)
- 池袋図書館 6月5日(水)~6月10日(月)
- 目白図書館 6月12日(水)~6月15日(土)
- 中央図書館 6月17日(月)~6月24日(月)
- 雑司が谷図書貸出コーナー 6月17日(月)~6月24日(月)

図書館カレンダー

中央図書館	駒込・巣鴨・上池袋・池袋・目白・千早図書館	雑司が谷図書貸出コーナー
開館時間 平日 午前10時~午後10時 土日祝 午前10時~午後6時	開館時間 平日 午前9時~午後7時 土日祝 午前9時~午後5時	開館時間 平日 午前10時~午後7時 土日祝 午前10時~午後5時
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
4月 ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚
5月 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜
6月 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟

東日本大震災から2年が過ぎました。先日、「二死の淵を見た男」吉田昌郎と福島第一原発の五〇〇日「著者・門田隆将、発行・樫P日P研究所」を読みました。命を懸けて原子炉を冷やそうとする活動が手に取るようにわかりました。しかし、いまだに多くの避難生活を送る人々がいまも一日も早い収束を願うばかりです。

編集後記